

事例 英語

1 単元について

対 象 学 年	高等学校 第2学年
学習指導要領	読むこと(イ) 書くこと(エ)
単 元 名	Lesson 6 UNDER THE ATOMIC CLOUD (全11時間) ENGLISH COURSE II 堂
単 元 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキストの被爆体験に感情移入し、追体験しようとレシテーションに積極的に取り組んでいる。</li> <li>・ 間違えることを恐れずに自分の考えをまとめた英文で書き、表現できないところがあっても既知の語句や表現を使って、読み手に自分の主張を伝えようとしている。 (コミュニケーションの関心・意欲・態度)</li> <li>・ oral interpretation の視点から、グループでパート別にレシテーションを行い、テキストから得られた解釈を、音声面に留意して豊かに表現し、聞き手に伝える。</li> <li>・ テキストの被爆体験や関連教材を読み、戦争の悲惨さと平和の尊さについて、自分の考えをまとめた英文で述べ、生徒間で考えを交換する。 (表現の能力)</li> <li>・ 各パートを意味のまとまりごとに読み進め、パラグラフごとに概要を速く正確に把握できる。</li> <li>・ 内容を捉える上で重要となるキーワードに留意し、話の流れを整理することができる。</li> <li>・ 被爆体験という題材を意識し、筆者の訴えたいこと、心の動き、情景を適切に理解することができる。 (理解の能力)</li> <li>・ 関係代名詞の非制限用法、関係代名詞～前置詞の意味と用法を理解し定着させる。</li> <li>・ 永井茅乃さんが語る長崎での被爆体験を読むことで、戦争の愚かさや悲しさ、平和の大切さについて考えさせ、現在もなお戦禍のやまない世界情勢について問題意識を掘り起こす。 (言語や文化についての知識・理解)</li> </ul>
配 慮 事 項	<p>レシテーションによる発表と戦争に対する自分の考えの交換を最終目標と捉え、プロセスとして、物語の流れを把握し、筆者の訴えを理解し、音声指導を行う。そのために、以下の点に配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキストを読む前に戦争や紛争についてクイズ等を与え、問題意識を喚起する。</li> <li>・ 黙読が度々中断することのないよう、新出の文法事項や表現については、予め説明を与える。</li> <li>・ 読む集中力を持続させるために、意味のまとまりごとに区切られた英文を読ませ直読直解に心がけさせる。</li> <li>・ 確認のためにパートごとに訳例を与える。</li> <li>・ True or False、Q and A、cloze test など多様な問題を与え、内容確認させる。</li> <li>・ キーワードが示す内容について日本語による説明を求め、解釈につなげる。</li> <li>・ retelling をペアで行い、語り手と聞き手を意識させると同時に、音声面での相互チェックをさせる。連音・ストレス・ブレスグループの練習は一斉指導する。</li> </ul>
参 考 資 料	資料1：授業プリント 資料2：recitation 評価表(教師用) 資料3：recitation 評価表(生徒用) 資料4：評価補助簿

## 2 単元の評価規準

	ア ミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
読むこと の評価規準	「読むこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。	幅広い話題についての英語を正しく音読したり暗唱したりすることができる。	幅広い話題についての英語を読んで、情報や考えなど書き手の伝えようとすることを正確に理解することができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。
	さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを主体的に続けようとしている。	幅広い話題についての英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読したり暗唱したりすることができる。	幅広い話題についての英語を場面や目的に応じて適切に読み取ることができる。	幅広い話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
書くこと の評価規準	「書くこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。	幅広い話題について得た情報や自分の考えを英語で正しく書くことができる。		言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。
	さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを主体的に続けようとしている。	幅広い話題について、場面や目的に応じて、英語で適切に書くことができる。		幅広い話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
単元における 評価規準	(言語活動への取組) ・ 積極的にレシテーションに取り組んでいる。  ・ 間違ふことを恐れずに、自分の考えをまとめた英文で書いている。	(正確な音読及び正確な筆記) ・ 正しいリズムやイントネーションなどを用いてレシテーションができる。  ・ テキストの被爆体験や関連教材について自分の考えを正確に書くことができる。	(正確な読み取り) ・ パラグラフごとに概要を速く正確に把握することができる。	(言語についての知識) ・ 関係代名詞の非制限用法、関係代名詞～前置詞の意味と用法を知っている。
	(コミュニケーションの継続) ・ 表現できないところがあっても既知の語句や表現を使って書き続けている。	(適切な音読及び適切な筆記) ・ テキストから得られた解釈を考慮して、適切にレシテーションすることができる。  ・ 自分の考えについて、内容を整理し、まとめた分量を書くことができる。	(適切な読み取り) ・ パート全体の話の流れを適切に整理することができる。  ・ 筆者の訴えたいこと、心の動き、情景を適切に理解することができる。	(文化についての理解) ・ 被爆体験の訴えに共感し、戦争と平和について問題意識を持っている。

	ア ミュージックへの 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
学習活動における 具体の評価規準	<p>(言語活動への取組)</p> <p>感情移入し、積極的に レシテーションに取り 組んでいる。</p> <p>語句や文法などの誤 りに関わらず、自分の 考えをまとめた英 文で書き、読み手に伝 えようとしている。</p>	<p>(正確な音読及び正確な 筆記)</p> <p>正しい発音、連音、ス トレス、ブレスグルー プ、リズム、イントネ ーションに留意して、 豊かにレシテーショ ンができる。</p> <p>テキストや関連教材 を読み、正確な表現・ 語彙・文法を使って、 自分の考えを書くこ とができる。</p>	<p>(正確な読み取り)</p> <p>意味のまとまりごと に読み進め、パラグラ フごとに概要を速く 正確に把握すること ができる。</p>	<p>(言語についての理解)</p> <p>語句を先行詞とする 関係代名詞( who 及び which ) の非制限用法 の意味と用法を知っ ている。</p> <p>【関係代名詞～前置 詞( which ～ at )】及 び【前置詞＋関係代名 詞～( at which ～ )】 の意味と用法を知っ ている。</p>
	<p>(コミュニケーションの 継続)</p> <p>表現できないところ があっても、既知の語 句や表現を使って言 い換えたり、辞書を活 用したりして書き続 けている。</p>	<p>(適切な音読及び適切な 筆記)</p> <p>テキストの被爆体験 から得られた解釈を 反映させ、レシテー ションによって、筆者の 訴え、心の動き、情景 を適切に表現するこ とができる。</p> <p>テキストや関連教材 について1つのテー マに対して自分の考 えを3文以上の英語 で書き表すことがで きる。</p>	<p>(適切な読み取り)</p> <p>キーワードとパート 全体の話の流れを関 連づけ、適切に内容を 整理することができる。</p> <p>被爆体験という題材 を意識し、筆者の訴え たいこと、心の動き、 情景を適切に理解す ることができる。</p>	<p>(文化についての理解)</p> <p>戦争の愚かさとし さ、平和の大切さに気 づき、現代の世界情勢 について問題意識を 持っている。</p>

### 3 指導と評価の計画（全10時間）

時	学習目標	学習活動	評価規準				評価方法	指導・援助
			ア 関 心	イ 表 現	ウ 理 解	エ 知 識		
1	<p>原爆投下をはじめとする過去の戦争や現在の戦争について知識を得るとともに、戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の大切さについて問題意識を喚起する。</p> <p>関係代名詞の非制限用法、及び【関係代名詞～前置詞】の意味と用法を理解し、定着させる。</p>	<p>単元全体の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリントの配布。</li> <li>・戦争や紛争についてのクイズに答える。</li> <li>・冒頭の聞き取りクイズに答える、本文の予備知識を得るとともに、テキスト理解のためのキーワードに着目する。</li> <li>・被爆体験を扱った短い関連教材を読む。</li> </ul> <p>・関連教材のレシテーションのデモ。</p> <p>・p.61のPOINTSを利用し関係代名詞（which と who）の非制限用法、及び【関係代名詞～前置詞（which～at）】と【前置詞＋関係代名詞～（at which）】の意味と用法の説明。</p> <p>・関係代名詞を含む文の練習問題。</p>					<p>・授業プリントの記入状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・背景知識を得るとともに、関心を喚起する。</li> <li>・キーワードを板書し意識付けする。</li> <li>・語彙の意味をつけておき、簡単な英文を読ませる。</li> <li>・レシテーションを単元の終わりに行うことを予告する。</li> <li>・基礎的文法事項の定着を図る。</li> </ul>

2	<p>テキストを意味のまとまりごとに読み進め、読む速度を向上させる。</p> <p>パラグラフごとに概要を速く正確に把握できるようにする。</p> <p>内容を捉える上で重要となるキーワードに留意し、話の流れを適切に整理することができる。</p>	<p>【Part 1】</p> <p>教科書を閉じたまま、テキストのテープを聴き、口頭の True or False questions を答える。</p> <p>教科書を開けて、もう一度テープを聴き、全員で答え合わせをする。</p> <p>新出単語及びキーワードの発音練習を行う。</p> <p>sense grouping、SVOC、簡単な文法説明が施してあるテキストのプリントが配布される。できるだけ速く黙読し、時間を記録する。</p> <p>プリントの英語の質問に答え、全員で答え合わせをする。</p> <p>sense group ごとにテキストの意味の確認をする。</p> <p>文法的・構造的に難しい英文の説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Nothing dreadful~</li> <li>・ The shelter, which~</li> </ul> <p>もう一度プリントのテキストを黙読し、時間を記録する。</p> <p>プリントの日本語の質問に答え、全員で答え合わせをする。</p> <p>教科書、プリントを閉じたまま、テキストのテープを聴き、再度 sense group ごとに意味の確認をする。</p> <p>教科書のテキストを見ながら、テープに合わせて全員で音読練習をする。</p> <p>教科書のテキストを見ながら、個々に音読練習をする。</p> <p>テキストの訳例を配布し、家庭での復習時に活用させる。</p>					<p>・活動の観察</p> <p>・授業プリントの記入状況</p>	<p>・テキストと質問は2回ずつ繰り返す。質問内容は、簡単にし、音に慣れさせる。</p> <p>・予習で単語等の意味調べをさせておく。</p> <p>・全文を読ませず、拾い読みさせる。</p> <p>・sense group ごとに個々の生徒に順番に当てていき、途切れることのないよう配慮する。</p> <p>・視点を sense group 単位から文全体に向けさせる。</p> <p>・最初より速く読むよう促す。</p> <p>・段落全体を見通すことを意識させる。</p> <p>・sense group ごとに個々の生徒に順番に当てていき、途切れることのないよう配慮する。</p> <p>・机間指導により発音をチェックする。</p>
---	---	--	--	--	--	--	-----------------------------------	---

3	<p>テキストを意味のまとまりごとに読み進め、読む速度を向上させる。</p> <p>パラグラフごとに概要を速く正確に把握できるようにする。</p>	<p>【Part 1 の復習】</p> <p>教科書のテキストを見ながら黙読し、時間を記録する。</p> <p>【Part 2】</p> <p>教科書を閉じたまま、テキストのテープを聴き、口頭の True or False questions を答える。</p> <p>教科書を開けて、もう一度テープを聴き、全員で答え合わせをする。</p> <p>新出単語及びキーワードの発音練習を行う。</p> <p>sense grouping、SVOC、簡単な文法説明が施してあるテキストのプリントが配布される。できるだけ速く黙読し、時間を記録する。</p> <p>プリントの英語の質問に答え、全員で答え合わせをする。</p> <p>sense group ごとにテキストの意味の確認をする。</p> <p>文法的・構造的に難しい英文の説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ the last time we saw~</li> <li>・ the money she had just~</li> <li>・ see if everything was~</li> <li>・ patted me on the head~</li> <li>・ and so did Makoto~</li> <li>・ a strong wind, which~</li> <li>・ with my hands over~</li> <li>・ They weren't ~any more</li> </ul> <p>もう一度プリントのテキストを黙読し、時間を記録する。</p> <p>教科書のテキストを見ながら、テープに合わせて全員で音読練習をする。</p> <p>教科書のテキストを見ながら、個々に音読練習をする。</p> <p>テキストの訳例を配布し、家庭での復習時に活用する。</p>					<p>・活動の観察</p>	<p>・教科書には、何も記入させないようにする。</p> <p>・テキストと質問は2回ずつ繰り返す。質問内容は、簡単にし、音に慣れさせる。</p> <p>・予習で単語等の意味調べをさせておく。</p> <p>・全文を読ませず、拾い読みさせる。</p> <p>・sense group ごとに個々の生徒に順番に当てていき、途切れることのないよう配慮する。</p> <p>・視点を sense group 単位から文全体に向けさせる。</p> <p>・最初より速く読むよう促す。</p> <p>・机間指導により発音をチェックする。</p>
---	---	---	--	--	--	--	---------------	---

4	<p>テキストを意味のまとまりごとに読み進め、読む速度を向上させる。</p> <p>パラグラフごとに概要を速く正確に把握できるようにする。</p> <p>内容を捉える上で重要となるキーワードに留意し、話の流れを適切に整理することができる。</p>	<p>【Part 2 の復習】</p> <p>教科書のテキストを見ながら黙読し、時間を記録する。</p> <p>【Part 3】</p> <p>教科書を閉じたまま、テキストのテープを聴き、口頭の True or False questions を答える。</p> <p>教科書を開けて、もう一度テープを聴き、全員で答え合わせをする。</p> <p>新出単語及びキーワードの発音練習を行う。</p> <p>sense grouping、SVOC、簡単な文法説明が施してあるテキストのプリントが配布される。できるだけ速く黙読し、時間を記録する。</p> <p>プリントの英語の質問に答え、全員で答え合わせをする。</p> <p>sense group ごとにテキストの意味の確認をする。</p> <p>文法的・構造的に難しい英文の説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Swelling and swelling, ~</li> <li>・ The sun, which I~</li> <li>・ almost as dark as~</li> <li>・ We stood there watching</li> </ul> <p>もう一度プリントのテキストを黙読し、時間を記録する。</p> <p>Part 2 の第3段落及び Part 3 全体について、筆者(茅乃)が見た原爆投下後の様子の変化を絵に描く。</p> <p>教科書のテキストを見ながら、テープに合わせて全員で音読練習をする。</p> <p>原爆投下後の様子を自分が描いた絵を使って retell できるようにテキストを読み込む。</p> <p>ペアで、パートナーに原爆投下後の様子を retell する。</p> <p>テキストの訳例を配布し、家庭での復習時に活用させる。</p>					<p>・活動の観察</p> <p>・授業プリントの記入状況</p> <p>・活動の観察</p>	<p>・教科書には、何も記入させないようにする。</p> <p>・テキストと質問は2回ずつ繰り返す。質問内容は、簡単にし、音に慣れさせる。</p> <p>・予習で単語等の意味調べをさせておく。</p> <p>・全文を読ませず、拾い読みさせる。</p> <p>・sense group ごとに個々の生徒に順番に当てていき、途切れることのないよう配慮する。</p> <p>・視点を sense group 単位から文全体に向けさせる。</p> <p>・最初より速く読むよう促す。</p> <p>・段落全体を見通すことを意識させる。</p> <p>・机間指導により発音をチェックする。</p> <p>・話し手、聞き手ともにテキストを見ない。</p>
---	---	--	--	--	--	--	---	---

5	<p>テキストを意味のまとまりごとに読み進め、読む速度を向上させる。</p> <p>パラグラフごとに概要を速く正確に把握できるようにする。</p> <p>被爆体験という題材を意識し、筆者の訴えたいこと、心の動き、情景を適切に理解することができる。</p>	<p>【Part 3 の復習】</p> <p>教科書のテキストを見ながら黙読し、時間を記録する。</p> <p>【Part 4】</p> <p>教科書を閉じたまま、テキストのテープを聴き、口頭の True or False questions を答える。</p> <p>教科書を開けて、もう一度テープを聴き、全員で答え合わせをする。</p> <p>新出単語及びキーワードの発音練習を行う。</p> <p>sense grouping、SVOC、簡単な文法説明が施してあるテキストのプリントが配布される。できるだけ速く黙読し、時間を記録する。</p> <p>プリントの英語の質問に答え、全員で答え合わせをする。</p> <p>sense group ごとにテキストの意味の確認をする。</p> <p>文法的・構造的に難しい英文の説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Ritsuko was laid down~</li> <li>・ She just lay there.</li> <li>・ what I really cared~</li> </ul> <p>もう一度プリントのテキストを黙読し、時間を記録する。</p> <p>プリントの日本語の質問に答え、自分の考えをグループ内で交換する。</p> <p>教科書のテキストを見ながら、テープに合わせて全員で音読練習をする。</p> <p>教科書のテキストを見ながら、個々に音読練習をする。</p> <p>テキストの訳例を配布し、家庭での復習時に活用させる。</p>					<p>・教科書には、何も記入させないようにする。</p> <p>・テキストと質問は2回ずつ繰り返す。質問内容は、簡単にし、音に慣れさせる。</p> <p>・予習で単語等の意味調べをさせておく。</p> <p>・全文を読ませず、拾い読みさせる。</p> <p>・sense group ごとに個々の生徒に順番に当てていき、途切れることのないよう配慮する。</p> <p>・視点を sense group 単位から文全体に向けさせる。</p> <p>・最初より速く読むよう促す。</p> <p>・段落全体を見通すことを意識させる。</p> <p>・机間指導により発音をチェックする。</p>
---	---	---	--	--	--	--	---



6	<p>テキストを意味のまとまりごとに読み進め、読む速度を向上させる。</p> <p>パラグラフごとに概要を速く正確に把握できるようにする。</p> <p>被爆体験という題材を意識し、筆者の訴えたいこと、心の動き、情景を適切に理解することができる。</p>	<p>【Part 4 の復習】</p> <p>教科書のテキストを見ながら黙読し、時間を記録する。</p> <p>【Part 5】</p> <p>教科書を閉じたまま、テキストのテープを聴き、口頭の True or False questions を答える。</p> <p>教科書を開けて、もう一度テープを聴き、全員で答え合わせをする。</p> <p>新出単語及びキーワードの発音練習を行う。</p> <p>sense grouping、SVOC、簡単な文法説明が施してあるテキストのプリントが配布される。できるだけ速く黙読し、時間を記録する。</p> <p>テキストの概要の空所補充を完成し、全員で答え合わせをする。</p> <p>sense group ごとにテキストの意味の確認をする。</p> <p>文法的・構造的に難しい英文の説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• bandages, which were~</li> <li>• were afraid to go near~</li> <li>• so shocked that~</li> <li>• Daddy, who was~</li> <li>• What had looked like~</li> <li>• Daddy said ~ but that~</li> </ul> <p>もう一度プリントのテキストを黙読し、時間を記録する。</p> <p>プリントの日本語の質問に答え、自分の考えをグループ内で交換する。</p> <p>教科書のテキストを見ながら、テープに合わせて全員で音読練習をする。</p> <p>教科書のテキストを見ながら、個々に音読練習をする。</p> <p>テキストの訳例を配布し、家庭での復習時に活用させる。</p>					<p>・活動の観察</p> <p>・授業プリントの記入状況</p>	<p>・教科書には、何も記入させないようにする。</p> <p>・テキストと質問は2回ずつ繰り返す。質問内容は、簡単にし、音に慣れさせる。</p> <p>・予習で単語等の意味調べをさせておく。</p> <p>・全文を読ませず、拾い読みさせる。</p> <p>・sense group ごとに個々の生徒に順番に当てていき、途切れることのないよう配慮する。</p> <p>・視点を sense group 単位から文全体に向けさせる。</p> <p>・最初より速く読むよう促す。</p> <p>・段落全体を見通すことを意識させる。</p> <p>・机間指導により発音をチェックする。</p>
---	---	---	--	--	--	--	-----------------------------------	---

7	<p>テキストを意味のまとまりごとに読み進め、読む速度を向上させる。</p> <p>パラグラフごとに概要を速く正確に把握できるようにする。</p> <p>内容を捉える上で重要となるキーワードに留意し、話の流れを適切に整理することができる。</p>	<p>【Part 5 の復習】</p> <p>教科書のテキストを見ながら黙読し、時間を記録する。</p> <p>【Part 6】</p> <p>教科書を閉じたまま、テキストのテープを聴き、口頭の True or False questions を答える。</p> <p>教科書を開けて、もう一度テープを聴き、全員で答え合わせをする。</p> <p>新出単語及びキーワードの発音練習を行う。</p> <p>sense grouping、SVOC、簡単な文法説明が施してあるテキストのプリントが配布される。できるだけ速く黙読し、時間を記録する。</p> <p>プリントの英語の質問に答え、全員で答え合わせをする。</p> <p>sense group ごとにテキストの意味の確認をする。</p> <p>文法的・構造的に難しい英文の説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Tenshudo, which itself~</li> <li>・ the dead</li> <li>・ a cross with ~ on it</li> <li>・ people present at~</li> <li>・ ~, which made ~</li> <li>・ doesn't get any bigger~</li> <li>・ Whenever I visit her~</li> </ul> <p>もう一度プリントのテキストを黙読し、時間を記録する。</p> <p>プリントの日本語による質問に答える(キーワードに関連する事柄をまとめる)。</p> <p>教科書のテキストを見ながら、テープに合わせて全員で音読練習をする。</p> <p>前述のキーワードを使って、retell できるようテキストを読み込む。</p> <p>ペアで、パートナーに Part 6 の内容を retell する。</p> <p>テキストの訳例を配布し、家庭での復習時に活用させる。</p>				<p>・教科書には、何も記入させないようにする。</p> <p>・テキストと質問は2回ずつ繰り返す。質問内容は、簡単にし、音に慣れさせる。</p> <p>・予習で単語等の意味調べをさせておく。</p> <p>・全文を読ませず、拾い読みさせる。</p> <p>・sense group ごとに個々の生徒に順番に当てていき、途切れることのないよう配慮する。</p> <p>・視点を sense group 単位から文全体に向けさせる。</p> <p>・授業プリントの記入状況</p> <p>・最初より速く読むよう促す。</p> <p>・段落全体を見通すことを意識させる。</p> <p>・机間指導により発音をチェックする。</p> <p>・活動の観察</p> <p>・話し手、聞き手ともにテキストを見ない。</p>
---	---	--	--	--	--	---

8	<p>間違ふことを恐れずに自分の考えをまとめた英文で書き、表現できないところがあっても既知の語句や表現を使って、読み手に自分の主張を伝えようとしている。</p> <p>テキストの被爆体験や関連教材を読み、戦争の悲惨さと平和の尊さについて、自分の考えをまとめた英文で述べ、生徒間で考えを交換する。</p>	<p>【テキスト全体の復習】</p> <p>教科書のテキスト全体を見ながら黙読し、時間を記録する。</p> <p>p.60 の SUMMARY を解き、全体で答え合わせをする。</p> <p>言語活動シートを使い、教科書欄外の各質問に対して自分の考えを3文以上の英語で書く。</p> <p>Q. Imagine you are in a war like this. How do you feel if you have air raids every day? など</p> <p>グループ内で質問ごとに、自分の書いた英文を読み上げ、自分の考えを交換する。</p>				<p>・活動の観察</p> <p>・授業プリントの記入状況</p>	<p>・教科書には、何も記入させないようにする。</p> <p>・各質問に答える前に該当の各 Part のテキストを読ませる。</p> <p>・個人活動として取り組ませる。</p> <p>・4人グループで取り組ませる。</p>
9	<p>テキストの被爆体験に感情移入し、追体験しようとレシテーションに積極的に取り組んでいる。</p>	<p>【レシテーションの練習】</p> <p>4人グループを作る。</p> <p>音声身体表現の7つのポイントを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語り手は誰か。</li> <li>・聞き手は誰か。</li> <li>・時はいつか。</li> <li>・場所はいつか。</li> <li>・目的は情報伝達か、説得か、歓待か。</li> <li>・内容がどういうことか。</li> <li>・様式は何か。</li> </ul> <p>レシテーション発表の評価の観点を理解する。</p> <p>各グループ間で担当する Part を決める。</p> <p>グループ内で担当を決め、発表方法を話し合う。</p> <p>発表の練習をする。</p>				<p>・活動の観察</p>	<p>・これまでと同じグループ。</p> <p>・音声身体表現の7つのポイント及び評価の観点を板書し、意識づけをする。</p> <p>・発表方法を工夫するよう促す。</p> <p>・机間指導により発音をチェックする。</p>

10	<p>テキストの被爆体験に感情移入し、追体験しようとしてレシテーションに積極的に取り組んでいる。</p> <p>テキストから得られた解釈を、レシテーションによって、音声面に留意し豊かに適切に表現することができる。</p>	<p>【レシテーションの発表】</p> <p>配布される評価表に目を通す。</p> <p>グループごとに発表開始。4人×10グループ。</p> <p>生徒用評価表を提出する。</p>					<p>・発表の評価（教師による個々の生徒の評価及び生徒によるグループごとの相互評価）</p>	<p>・発表の順番は予め決めておく。</p> <p>・発表の間、他の生徒は、評価に徹し、練習しない。</p> <p>・ビデオ撮影をして記録をとる。</p>
11	<p>関係代名詞の非制限用法、及び【関係代名詞～前置詞】の意味と用法を理解し、定着させる。</p>	<p>p.63 の PRACTICE を解き文法・語彙の復習と練習をする。</p> <p>本課で学習した文法事項、語彙についての定着確認テストを解く。</p> <p>レシテーション発表のグループ別評価結果（生徒の相互評価）やベストグループが発表される。</p> <p>個人別の評価（教師による評価）が個別にフィードバックされる。</p>					<p>・小テスト</p>	

#### 4 単位時間の授業展開例

##### (1) 本時のねらい

- ・テキストを意味のまとまりごとに読み進め、読む速度を向上させる。
- ・パラグラフごとに概要を速く正確に把握できるようにする。
- ・内容を捉える上で重要となるキーワードに留意し、話の流れを適切に整理することができる。

##### (2) 本時の位置

4 / 11

##### (3) 展開案

過程	学習活動	評価について	指導・援助
復習	<p>前時 (Part 2) の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書のテキストを見ながら、個々に黙読をする。</li> <li>・所要時間を記録する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書には何も記入させない。</li> <li>・前回よりも速く読めるよう促す。</li> </ul>
導入	<p>【Part 3】</p> <p>教科書を閉じたまま、テキストのテープを聴き、教師による口頭の True or False questions を答える。テキストと質問は2回ずつ繰り返す。</p> <p>True or False questions</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. A big pillar of fire was sticking up into the sky.</li> <li>2. First big pillar was all red, and then it turned yellow.</li> <li>3. After a while, it got dark and hot.</li> <li>4. Lots of black smoke was coming from Urakami.</li> <li>5. It began to rain.</li> </ol> <p>教科書を開けて、もう一度テープを聴き、全員で答え合わせをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テープスピードを遅くする。</li> <li>・質問内容は、簡単にし、音に慣れさせる。</li> <li>・挙手で回答させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テープスピードを標準にし、該当箇所を確認する。</li> </ul>
展開	<p>新出単語及びキーワードの発音練習を行う。</p> <p>テキストの速読練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・sense grouping、SVOC、簡単な文法説明が施してあるテキストのプリントが配布される。</li> <li>・個々に、できるだけ速く黙読する。</li> <li>・所要時間を記録する。</li> </ul> <p>プリントの英語の質問に答え、全員で答え合わせをする。</p> <p>Questions</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Where did the writer see a big pillar made of fire?</li> <li>2. What did the top of the pillar look like?</li> <li>3. How did the weather change?</li> <li>4. What kind of rain began to fall?</li> <li>5. Why did the writer go into the house?</li> </ol>	<p>ウ -</p> <p>プリントの英語の質問に答える活動を観察することにより、パラグラフごとに概要を速く正確に把握することができたかを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習で単語等の意味調べをさせておく。</li> <li>・読んでいる最中に単語等の意味を忘れた場合は、見てもよいこととする。</li> <li>・全文を読ませず、拾い読みさせる。</li> <li>・主語 + 動詞のある完全な文で答えさせる。</li> <li>・代名詞にも注意する。</li> </ul>

	<p>sense group ごとにテキストの意味の確認をする。</p> <p>文法的・構造的に難しい英文の説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>Swelling and swelling</u>, it went up and up, higher and higher, like smoke from a chimney, all the way up to the sky. (分詞構文の復習)</li> <li>• The sun, which I looked up at through the cloud, was the color of something dead.(関係代名詞の非制限用法)</li> <li>• It got dark---almost as dark as night---and cold, too.(比較級の復習)</li> <li>• We stood there watching the black smoke.(分詞構文の復習)</li> </ul> <p>もう一度プリントのテキストを黙読し、時間を記録する。</p> <p>Part 2 の第3段落及び Part 3 全体について、筆者(茅乃)が見た原爆投下後の様子の変化を絵に描く。</p> <p>Part 2 第3段落 Part 3 第1段落 Part 3 第1段落 Part 3 第1段落 Part 3 第2段落 Part 3 第3段落</p> <p>教科書のテキストを見ながら、テープに合わせて全員で音読練習をする。</p> <p>原爆投下後の様子を自分が描いた絵を使って retell できるようテキストを読み込む。</p> <p>ペアで、パートナーに原爆投下後の様子を自分が描いた絵を使って retell する。</p>	<p>ウ - 授業プリントに描かれている原爆投下後の様子を見ることで、内容が適切に整理されているか確認する。</p> <p>ウ - ペア・ワークを観察して、絵と話の流れを関連づけて話しているか、話が整理されているかを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• sense group ごとに個々の生徒に順番に当てていき、途切れることのないよう配慮する。</li> <li>• 視点を sense group 単位から文全体に向けさせる。</li> <li>• 最初より速く読むよう促す。</li> <li>• 段落全体を見通すことを意識させる。</li> <li>• 机間指導により発音をチェックする。</li> <li>• 話し手、聞き手ともにテキストを見ない。</li> </ul>
まとめ	<p>テキストの訳例を配布し、家庭での復習時に活用させる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 次の時間に、本時の復習として、教科書のテキストを黙読することを伝える。</li> </ul>

## 5 評価の実際と個に応じた指導事例

### (1) 本時重点的に取り上げた評価規準

<ウ - >

キーワードとパート全体の話の流れを関連づけ、適切に内容を整理することができる。

### (2) 評価の実際

評価の方法

<活動の観察> (Retelling での評価)

- Part 2 の第3段落及び Part 3 全体について、筆者(茅乃)が見た原爆投下後の様子の変化を絵に描く。配布されている授業プリントに6つの枠を用意し、予め内容ごとに絵を描きやすいようにしておく。
- 教科書のテキストを見ながら、テープに合わせて全員で音読練習をした後、描いた絵を使って retell できるようテキストを読み込む。
- ペアを組み、テキストを見ずに、絵を活用して、パートナーに原爆投下後の様子を retell する。パートナーもテキストを見ない。
- 教師は、retell が行われているペアをまわり、絵と話の流れを関連づけて話しているか、話が整理されているかを観察する。全ペアを観察できるよう、評価を終えてないペアには再度 retell させる。

評価の決定

- 下記の評価項目をもとにした評価基準がAまたはBであれば、達成と判断する。

キーワードを使って、絵に沿って話の流れを順序立てて話している。	A
キーワードを使って、絵に沿って内容を述べているが、話の流れを順序立てて話していない。	B
キーワードを使わず、絵や話の流れと関係させて話していない。	C

### (3) 個に応じた指導の実際

個の学習状況に応じた手だて

<キーワードを使って、絵に沿って話の流れを順序立てて話すことが、困難な生徒に対して>

sense grouping、SVOC、簡単な文法説明が施してあるテキストのプリントを使って、全体の流れが把握できるまで何度も読ませる。その際、sense group や文単位で和訳できるかどうかよりも、パラグラフごとに何について書いてあるかを意識させる。また、全体の内容を整理する上でのキーワードを見つけさせ、それをもとに retell させる。キーワードを見つけられない生徒に対しては、教師がテキストに をつけるなどして教える。また、時間外を利用して、教師に retell させ、援助しながらもやり遂げさせる。

単元を通した継続的な手だて

<意味のまとまりごとに速く読み進めパラグラフごとに概要把握することが困難な生徒に対して>

ほぼ毎時間行う活動として、教科書を綴じたまま、テキストを聞き、True or False questions に答える活動、sense group ごとに速読し、英語の質問に答える活動などがある。読んだり書いたりして表現する前に、これらの活動においての到達度を高める必要がある。よって、はじめのうちは、速く内容を読みとることができない生徒に対しては、毎時間、複数回(最低3回)繰り返すことにより、読む速度を上げる。

また、読む速度は、回数だけでなく、テキスト中に書かれたヒントにも関わってくるので、最終的には、何も書かれていない教科書のテキストを何度も読み、初めて読む英文にも対応できるようにさせる。

## 6 参考資料

資料1: Lesson 6 Part 3 授業プリント

資料2: recitation 評価票(教師用)

資料3: recitation 評価表(生徒用)

資料4: 評価補助簿

# POWWOW English Course II --- Lesson 6 UNDER THE ATOMIC CLOUD

## PART 3 (p.54-55)

A. 次の単語・熟語の意味に注意しなさい。

pillar	stick up	morning glory
swell	chimney	all the way up
after a while	bright	not ~ any more
spread	burn	take hold of
hit	stand ~ , watching	raindrop
greasy	spot	

B. Answer the following questions.

1. Where did the writer see a big pillar made of fire?
2. What did the top of the pillar look like?
3. How did the weather change?
4. What kind of rain began to fall?
5. Why did the writer go into the house?



C. Part 2 の第 3 段落及び Part 3 全体について、筆者（茅乃）が見た原爆投下後の様子の変化を絵に描き、英文で説明を加えなさい。ただし、茅乃と誠人がとった行動については、説明する必要はない。

(Part 2 第 3 段落)	(Part 3 第 1 段落)	(Part 3 第 1 段落)
(Part 3 第 1 段落)	(Part 3 第 2 段落)	(Part 3 第 3 段落)

D. 授業の最後、上記 C の絵を使ってパートナーに英語で説明できるよう、何度も読み込んでおくこと。



## English II Lesson 6 “UNDER THE ATOMIC CLOUD”-----Recitation 評価票（教師用）

Criteria 評価規準	score
<b>Empathetic delivery and positive mien</b> 感情移入し、積極的にレシテーションに取り組んでいる。	1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5
<b>Accurate pronunciation, stress, rhythm, intonation, posing and liaison</b> 正しい発音、連音、ストレス、ブレスグループ、リズム、イントネーションに留意して、豊かにレシテーションができる。	1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5
<b>Appropriate interpretation and impressive description</b> テキストの被爆体験から得られた解釈を反映させ、レシテーションによって、筆者の訴え、心の動き、情景を適切に表現することができる。	1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5

No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_ score \_\_\_\_\_ /15

Comments

## English II Lesson 6 "UNDER THE ATOMIC CLOUD"

## Recitation 相互評価表 (生徒用)

評価規準 グループ	筆者や登場人物になりきっている。	正しい発音でわかりやすく発表している。	筆者の訴えや心の動きが伝わり、情景が目に浮かぶようだ。	合計点
A	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	
B	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	
C	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	
D	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	
E	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	
F	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	
G	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	
H	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	
I	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	1 ---- 2 ---- 3	

注：点数の基準について

3・・・達成できている。

2・・・まあまあ達成できている。

1・・・達成できていない。

Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

## 評価から評定への総括

### 1. 評価

英語 においては「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4項目について、それぞれ各単元において1項目または2項目ずつ評価するように年間計画を立てた。それに基づき評価計画を立てた。

#### (1) 評価方法

- 一斉：
  - a. 定期テスト(4回)
  - b. インタビューテスト(2回)
- 授業時：
  - c. 発表の評価
  - d. 活動の観察
  - e. 授業プリント・作品
  - f. 小テスト

#### (2) 評価方法と評価の場

##### a. 定期テスト

前期中間考査・期末考査・後期中間考査・学年末考査時の計4回実施する。個人が「聞く」「読む」「書く」状況においてペーパーテストを利用して「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を評価する。

##### b. 面接

前期末考査と学年末考査に先だって各1回ずつ、ALTを活用した個人インタビューテストを計2回実施する。個人が「聞く」「話す」状況において、補助簿を利用して「話すこと」を評価する。

##### c. 発表の評価

授業時に、個人、ペアあるいはグループで「読む」または「話す」ことで発表する場合に補助簿を利用して「読むこと」「話すこと」を評価する。

##### d. 活動の観察

授業時に、個人、ペアあるいはグループで「聞く」「読む」「話す」「書く」状況において補助簿を利用して「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を評価する。

##### e. 授業プリント・作品

授業時に使用した学習プリント、言語活動シート、授業後の宿題として定着や調べ学習のために与えられた学習プリント、発表の準備のための原稿などについて、「読む」「書く」場合に、授業後、補助簿を利用して評価する。

##### f. 小テスト

単元毎に1回ずつ小テスト実施する。個人が「聞く」「読む」「書く」状況においてペーパーテストを利用して「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を評価する。

### ( 3 ) 評価計画

#### 補助簿の作成

単元毎に資料 4 のような評価補助簿を作成する。横軸に、観点別に、単位時間における評価規準を配し、単元における評価の方法を授業時間別に縦に並べてある。縦軸には、生徒氏名を並べ、1 枚の補助簿で生徒全員を評価できるようにする（習熟度別分割授業のため 20 名前後）。評価基準は A・B・C の 3 段階とし、表に書き込む。点数換算したもの（A = 5 点、B = 3 点、C = 1 点）を直接書き込む方法もある。

#### 定期テストの作成

ペーパーテストの形式とし、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」という内容のまとまりで作成する。

- ・ 前期中間考查： リスニング（内容把握・質疑応答・ディクテーション）、発音、アクセント、内容読解、語句整序、空所補充、英文要約、段落整序、文整序、英作文
- ・ 前期末考查： リスニング（内容把握・質疑応答・ディクテーション）、発音、アクセント、内容読解、語句整序、空所補充、英文要約、段落整序、文整序、英作文
- ・ 後期中間考查： リスニング（内容把握・質疑応答・ディクテーション）、発音、アクセント、内容読解、語句整序、空所補充、英文要約、段落整序、文整序、英作文
- ・ 学年末考查： リスニング（内容把握・質疑応答・ディクテーション）、発音、アクセント、内容読解、語句整序、空所補充、英文要約、段落整序、文整序、英作文

## 2 . 評定

### ( 1 ) ウェイトバランス表

次頁のとおり、ウェイトバランス表を作り、4 観点ごとに、評価項目それぞれについて評価方法を明らかにする。また、授業とテストの配点については授業の重要性を、観点別の配点については実践的コミュニケーション能力の重要性を認識できるよう留意する。

### ( 2 ) 評定の算出

次頁のとおり、評定（5 段階と 10 段階）の算出方法について明示する。年間（学期）を通して行ってきた評価を点数化し、100 点満点で換算し、得点率にしたがって評定をつける。

( 1 ) ウェイトバランス表

観点 評価方法		配分(%)	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
一 斉	定期テスト( 4 回 )	50		10	20	20
	インタビューテスト( 2 回 )	10		5	5	
授 業 時	発表の評価	10	5	5		
	活動の観察	15	5	5	5	
	授業プリント・作品	10		5		5
	小テスト	5				5
観点別合計		100	10	30	30	30

( 2 ) 評価から評定への換算

5 段階評定		1 0 段階評定	
評定	得点率	評定	得点率
5	81~100 %( 20 % )	1 0	89~100 %( 12 % )
		9	81~88 %( 8 % )
4	65~80 %( 16 % )	8	73~80 %( 8 % )
		7	65~72 %( 8 % )
3	41~64 %( 24 % )	6	57~64 %( 8 % )
		5	49~56 %( 8 % )
		4	41~48 %( 8 % )
2	25~40 %( 16 % )	3	33~40 %( 8 % )
		2	25~32 %( 8 % )
1	24 %( 24 % )	1	0~24 %( 24 % )

人数の相対評価ではなく、得点率による絶対評価

すべての定期考査で 3 0 点未満 ( 配分の換算をすると 1 5 点未満 )、すべてのインタビューテストや授業時の評価で C ( 配分の換算をすると、1 点×配分率÷ 5 ) をとった場合、1 となる。